

育苗日数、1ヶ月以内(20日~25日間)に!!

計画的な播種で、健苗育成に努めましょう。

【種子更新】

- ・種子は全量種子検査を受けたものに更新する。
- ・種子の品質保証票は保管しておく。

【種子消毒】

薬剤名	濃度 (水200当たり)	浸漬時間
テクリードCフロアブル	200倍 (100ml)	24時間

・消毒液温は10℃以下にしない。

- ・種籾と消毒液の容量比は[1:1以上]の割合とする。
- ・消毒した種籾は、食用や飼料に用いない。
- ・種籾袋には余裕を持って種籾を入れ、攪拌し効果ムラをなくす。

(注)消毒後の残液は、河川や用水路へ流さないで下さい。
簡易廃液処理キット(イレートキット)をご使用下さい。

—薬剤吹き付け種子使用の注意事項—

- ・塩水選は行わない。
- ・浸種を開始して最初の3日間は、水を交換しない。
- ・種子消毒作業は不要で、浸種からスタートする。
- ・種子の取り扱いには、マスク、手袋などを着用する。

【浸種】 浸種の積算温度は120℃以上！

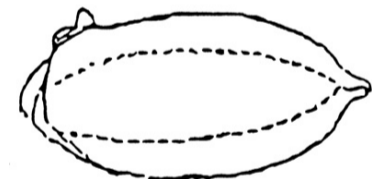
水温	浸種日数	注意事項
10℃	12日間	①初日の水温を10~15℃の適温に保つ。 ②2日に1回は水を入れ替え、籾の上下を入れ替える。 ③高温にしない(20℃以下)
15℃	8日間	

※もち類は浸種の積算温度を100℃で終了させる。

【催芽】

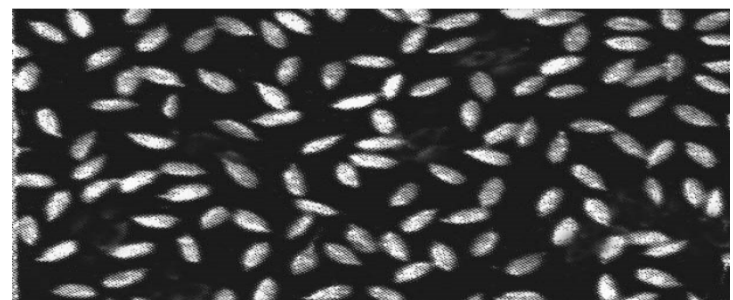
催芽適温	催芽程度	目安
30℃	1mm (ハト胸程度)	9割以上(発芽を揃える)

ハト胸程度
(播種に最適)



【播種】 薄播きでガッチリ苗づくり！

1箱当たりの播種量	
乾籾重量	120g / 箱
催芽籾重量 (目安)	150g / 箱



120g/箱の播種状態

- ・播種時の灌水は1箱あたり800~1000mlとし、箱の底まで床土が湿った状態とする。
- ・青カビ、白カビ、苗立枯病の予防として、播種時(800ml)から緑化期(500ml)にダコレート水和剤500~1000倍液を灌注処理する。

【出芽】 一斉に芽をそろえよう！

出芽の程度	出芽日数	温度管理
芽の長さが8~10mm程度	3~4日	30℃

水稻育苗ハウスを活用して野菜を栽培する場合は、育苗箱施薬剤を処理しない苗を用いて下さい。
また、田植前の施薬は育苗ハウス内で行わないで下さい。

コシヒカリの早播き、早植えは品質低下のもと。4月上旬に播種し、5月田植を実施しよう！

安全安心・きれいな米づくりを実践しよう！

【育苗管理】

	温度管理	ハウス管理	水管理
緑化期	《日中》 20～25℃ 《夜間》 15～20℃ (夜間の温度を高くすること)	【ハウス搬入後 3～4日】 緑化終了の目安は、芽が地際から2.5cm程度伸長した時期とする。 ・遮光や保温のためラブリットや寒冷紗で被覆する。 ・夜間は被覆資材の二重掛け等により保温に努める。 ・高温にならないよう晴天時は換気に努める。 ・日中に換気のためハウスを開けた場合、夜温確保のため午後3時頃までに閉めること。 ・ゆめみづほは2日程度被覆期間を長くする。	・緑化期間中の灌水は、覆土の持ち上がりがある場合と箱のシミが白く乾いた時だけとし、過湿に注意する。 ・灌水が必要な場合は晴天の早朝とし、低温時や夕方には行わない。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 葉ヤケに注意(ハウスのビニールを新しくした場合は特に注意) </div>			
硬化前期	《日中》 20℃前後 《夜間》 10℃以上	【ハウス搬入後 5～9日】 ・高温にならないよう、ハウスの開閉はこまめに行う。 ・日中は、被覆資材は使用しないこと。 ・夜間及び低温時は被覆資材等で保温する。	・灌水は午前10時頃までに行う。 ・曇雨天時は土の乾き具合を見て判断すること。
硬化中期	《日中》 15～20℃ 《夜間》 10℃以上	【ハウス搬入後 10～15日】 ・温度管理は低めとし、徐々に外気温にならす。 ・霜等に注意し、低温時は被覆資材で保温する。	・灌水は朝方、ゆっくり時間をかけてムラにならないよう行う。(灌水ムラは生育ムラの原因になります。) ・ハウスの換気により、床土が乾きやすいため、晴天の日は朝昼2回の灌水が必要な場合があるので注意する。
硬化後期	外気温にならす	【田植え前 8～10日】 ・日中はハウスのビニールを大きくめくり、温度が上がりすぎる時はハウスの腰部も開ける。 ・田植え4～5日前からは夜間も換気する。 ・霜に注意し、極端に冷え込む日は、日中早めにハウスを閉め、場合によっては被覆する。	・育苗期間が30日を超える場合や葉色が薄い場合には、田植え3日前に追肥を行う。 【追肥法】 液肥10号の200倍液(水10ℓに50ml)を1箱当たり500ml灌注し葉焼け防止のため軽く灌水する。

春先の機械作業時は過信せず、安全確認を十分に！

苗の品種区別をしっかりと行いましょう！

【カビ及び病害対策】

カビの種類	薬剤名	使用時期	処理方法
青カビ・白カビ	ダコレート水和剤	播種時から緑化期 但し播種14日後まで	500倍液(水10ℓに20g)を1箱当たり500ml灌注する。 総使用回数:2回以内
赤カビ	タチガレエースM液剤	発芽後	500倍液(水10ℓに20ml)を1箱当たり500ml灌注する。 総使用回数:1回以内

※ムレ苗が発生したら、早急にタチガレエースM液剤を灌注し、葉からの蒸散を抑えるために寒冷紗で遮光する。

**良質米は
『土づくり肥料』の施用から!!**

基肥一発肥料を使用する場合は、水稻の生育に不可欠なリン酸・加里が不足しますので、土づくりや中間追肥を必ず施用しましょう。

